

エドゥアール・ロックが切り拓く、 新たなる美の地平

前回の来日公演『アメリカ』から4年。
高速で繰り広げられる超絶技巧を駆使し
身体の極限に挑み続けるエドゥアール・ロックが、
新作『Amjad アムジャッド』のテーマに選んだのは、
何と『白鳥の湖』と『眠れる森の美女』。
クラシック・バレエの大いなるアイコンが、
大胆かつ先鋭に、まったく別次元の美へと変換される。



取材・文＝鴨澤章子（フリーライター、ロンドン在住）

大小3つのスクリーンに投影される思わしげなイメージに引き続き、舞台上に男性2人、女性3人のダンサーが現れる。一切、音楽のない静寂の中で、彼らは腕を上下に大きく振り動かし空間の中で揺らめく……。

昨年4月にカナダで初上演されたラ・ラ・ラ・ヒューマンステップスの新作『Amjad アムジャッド』は、その冒頭から観客の意表をつく。それは紛れもない“白鳥”の羽ばたき。と言うのも、同カンパニーの振付家エドゥアール・ロックは、この作品でチャイコフスキーの「白鳥の湖」と「眠れる森の美女」という2つのクラシックバレエのアイコンを取り上げているのだ。かつてラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップスの作品と言えば、激しいロック・ミュージックにのせて、限界に挑戦するかのようにスピード感溢れる超絶技巧を繰り広げることで知られていた。物語性をあえ